# オリンピック出場のアスリート!

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)が令和3年7月23日~8月8日まで開催され岩手県出身 選手が7名出場しました。写真掲載とともに、オリンピックに出場しての感想や今後の目標などコメン トが届きましたのであわせて紹介します。



# 水本 圭治 選手(チョープロ)

カヌー

オリンピックに出て感じたことは、スポーツ最大 のイベントということで、無観客で行われたにも関 わらず、これまで経験してきたレースの何倍も緊張 やプレッシャーを感じたことです。今回のオリン ピックは、本来の実力を発揮することが出来ず、非 常に悔しい大会となってしまいました。このままで は終わるわけにはいかないので、また同じ舞台に 立って活躍できるように、次のパリ五輪も目指して 頑張りたいです。



佐々木 千鶴 選手(岩手県警察)

射擊

あの場所で、射撃ができたことに、本当に感謝の 気持ちでいっぱいです。

試合中は、自分の射撃をすることで、必死でした。 終わってみて思うことは、あの場所で射撃ができ たことは、本当に幸せな時間だったなと思います。

初めてのオリンピック経験を活かし、今後目標と する舞台で結果を残すことができるよう、さらなる 射撃の研究に努めてまいります。



## 吉田 健人 選手 (警視庁)

フェンシング

目標としていたメダルには届きませんでしたが、 自分の持てる力を全て出し切り、夢の舞台での試合 を楽しむことができました。オリンピックのなんと も言えない雰囲気を初めて経験し、「メダルを取りた い。」という気持ちがより一層強くなりました。3年 後のパリオリンピックは、最後のチャンスになると 思います。開催まで残り950日を切りました。1日1 日を大切にして、メダル獲得を目指します。これか らも応援よろしくお願いします。





### 田中 海渡 選手 (表示灯フラーテルホッケーチーム) ※岩手町出身

TOKYO 2020開催にあたり関わっていただいた関係者、ボランティアの皆 さまに本当に感謝いたします。皆さまのご協力のおかげで、思い出に残る TOKYO 2020になりました。そして、僕がここに来るまで1番の支え、モチ ベーションになった家族に『ありがとう』って伝えたいです。

僕にとって初めてのオリンピックでした。素晴らしい経験、出会い、感情、 風景。どれも忘れられないです。そして、もう1度ここに立ちたいと思いま した。もう1度オリンピックの舞台に立てるよう、自分を信じて頑張ります。



瀬川 真帆 選手 (東京ヴェルディホッケーチーム)

岩手の皆さん、地元からの熱い応援ありがとうございま した。母国でのオリンピックという舞台で戦うことができた こと嬉しく思います。1点差の試合が続く中、1点の重みを 知らされる大会だったと感じます。

今回の大会で改めて日の丸をつけて国を背負って戦うこ との素晴らしさを実感しました。もっと上を目指して個人の 技を磨くとともに、チームとしても今後の国際大会での結果 に1つ1つ拘って戦いたいと思います。今後とも、岩手から の熱い応援よろしくお願いいたします。



及川 栞 選手 (東京ヴェルディホッケーチーム)

初めてのオリンピック。母国開催で、岩手、そして、国 の代表として母国の国旗を胸に戦えたこと、何にも変えられ ない貴重な経験となった。目標にしていた金メダルには程遠 い結果で非常に悔しかった。一点差ゲームを勝ちきれるチー ムにしていかなければ今後世界で勝っていくことが出来な い。課題にしっかり向き合い、来年はワールドカップ、アジ ア大会が控えている。アジア大会で優勝すると、パリオリン ピックへの切符を獲得出来るので、オリンピック出場を決め れるよう、レベルアップをしていきたい。



### 髙橋 英輝 選手 (富士通) ※花巻市出身

今夏行われた東京オリンピック・パラリンピックにおいては、困難な状況の中 で、本当にたくさんの方々が支えてくださり、温かいご声援を下さったことに心 から感謝をしています。

望む結果は得られませんでしたが、信頼する方達と世界を目指してきた日々、 憧れの舞台での一歩一歩は私にとってかけがえのない大切な時間です。

たくさんの方々の支えと応援のお陰で、大切な20kmを歩き切ることが出来ました。 本当にありがとうございました。

陸上男子20<sup>\*</sup>。競歩 猛暑の中で懸命の歩きを見せ、32位だった高橋英樹(富士通) = 計師市・計価大通の陶弥瀬特約コース(黎理部・及川慶修撮影)(岩手日報2021年8月6日付)

競歩